

第2回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の結果概要について

1 会議の日時等

開催日時 令和2年8月3日(月)14時00分から16時10分(大津合庁7A会議室)
出席委員 原 清治 大野裕己 炭谷将史 坂口明德 高野裕子 樋口康之
稲葉芳子 中作佳正 上原重治 今宿綾子 中山郁英 石野沙恵

- ◇滋賀県立高等学校再編計画の実施状況について意見交換
- ◇これからの県立高等学校の在り方について意見交換

2 委員からの主な意見

※下記内容は、委員の了承を取っておらず、事務局がまとめたものである。

■学校統合について

①	彦根翔西館高校について、標準規模を下回る2校を統合することで、多様な学びが総合学科の中で充実してきた。ある程度の規模があれば、子供たちの社会性が涵養できるというメリットもあるし、部活動の活性化、充実にもメリットがある。
②	それぞれ異なるカルチャーや地域性を持った子供達、学校が一緒になる場合には、かなり慎重に議論しないと、ハレーションが起きやすいのではないかと。
③	長浜北高校について、学校が統合するという議論が、全市的な議論にはなっていないのか。
④	高校の魅力化の在り方としては、本来、地域だけではなく、地域外からもいきたいと思えるような高校をつくるべきではないかと。
⑤	卒業生の7割が大学進学し、統合にねらい通り中核的普通科高校となっているとあるが、これからも大学進学率を評価基準とし続けても良いのか。

■これからの高等学校について

①	進学校と就職に特化したような専門的な高校の2つに分けてしまうのも一つではないかと。大学にも行けるし、就職もできます、となると中途半端になってくる。受検生の親としてはその方がわかりやすい。
②	全部一緒ではなく、進学を中心に特化する高校と、産業に特化して、就職につなげる高校とがある方がよいのではないかと。産業ならそれぞれの高校に、その高校独自の魅力がほしい。
③	全県的な視野から、魅力の分業というものもあるが、一方で、県立高校としては、どこの地域でも様々なキャリア形成を保障するような学校づくりをすることもひとつの役割ではないかと。地域の活性化に向けた人づくりが重要。

■小規模な学校の魅力づくり

①	様々な選択肢の中で、キャリア形成を図り、地域に貢献する人材を育成することが、人口減少を抱える地域にとっては、大きな魅力づくりの方策ではないか。
②	コミュニティ・スクールがどのように運営されるかが大事ではないか。校長も数年で替わる中、その高校をどういう方向で運営し、どういった生徒を育てていくのか、を最後まで確認していけるのがコミュニティ・スクールではないか。
③	例えば他府県では防災をキーワードにしてその中で小中高とつながっていく。あるいは、学力の面で、学力向上を目指して、それを一つのキーワードにして、小中高つながるといことがある。いろいろなキーワードによるつながり方がある。それが、魅力の一つになっていくのではないか。
④	高校におけるコミュニティ・スクールは、地域で生まれ育つ圏域として捉えるよりも、テーマとして捉え、地域の教材としてより良い内容を提供し、地域外から来る生徒も含めた多様性の中で学ぶことが大事ではないか。
⑤	リモート教育を始めると、小規模校とか大規模校とか関係なくなるのではないか。また、ITだとかSTEAM教育は、専門家の優秀な先生が、全県の高校生たちに同一の勉強を教えるということにすると、高校の規模は、関係なくなる。
⑥	学校規模や魅力の出し方は様々であり、全ての高校をサイズ感で統一する必要はないのではないか。

■産業系の専門学科について

①	工業高校では、自分たちで機械をつくり、地域に出て貢献することで、「学校でやっていることは役に立つ」ということを学べる。
②	Society5.0に関連して、全ての業界において、新たな情報技術を身につけている人材というのが、新しい価値を創出できる人材として活躍するのではないか。AIやIoTといった先進技術を身につける教育が必要ではないか。
③	専門的に教育して、高校卒業してすぐに社会に役立つ人材を育てる必要がある。それぞれの分野に長けた講師、また教師っていうのを入れるべき。
④	工業高校では、様々な取組をして貢献しており、親の世代の意識を変えていくように、アピールをする必要があるのではないか。
⑤	偏差値的な部分ではない進路指導をしてほしい。将来的にこういうことをしたいといったことをしっかり聞きとり、その中でこの子なら工業とか商業に行った方がいいということを成績に関係なく進路指導をしてほしい。
⑥	施設設備について、今の状況の中でなかなか予算的なところもあって充実してないと思う。企業などと連携し、充実させる必要があるのではないか。
⑦	昔の工業高校は荒れていたもので、今でも親は心配なのではないか。工業高校の取組を、しんどさも含めて、親世代の意識を変えるようアピールが必要。

■中学生の進路選択

①	最近、自転車で行ける範囲の高校でよい、といった中学生が多いと感じる。目的意識が希薄だ。また、目的意識があっても、工業や商業ではなく、ネイルアートなど、既存の枠組みに入らない希望もある。
②	親の仕事や社会の中の役割を知らない子供が多い。学んだことを地域や社会の中でどのように生かしていくかということ、体系的な学習を進めていく必要がある。具体的には産官学の連携や、地域学習や様々な体験など、社会とのつながり、地域とのつながり、そういったものが大事。
③	未来を見通せないまま学校を選択するので、とりあえず普通科となる。一方で、親としては、早いうちから専門を決めてほしい。広く知的トレーニングをたくさんして、底辺を広げて将来を決めてほしいと思っている。
④	15年前に今の世の中が見えていた人なんていないのでは。それを思うと多様な能力をつけて、適応する力がある人間になってほしいというのが、一つの親の願い。
⑤	進路決定をする場を先送りして、とりあえず普通科高校を志望する子どもたちが多いように感じる。

■今後の進め方

①	湖北地域の国際バカロレアや湖西地域の学科再編など生徒の減少地域における取組の資料を出してもらい、何が魅力づくりのコアになるのか、キーワードになりえるのか、そんなことを議論したい。
②	これまでの論点を整理して、基本方針の骨子のイメージのようなものを作成してほしい。

3 今後の予定

◇第3回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の開催 8月31日(月)9:00～

《主な内容》

- ・滋賀県立高等学校再編計画の実施状況について
- ・取組の方向性について(基本方針骨子イメージ、産業教育論点整理)
- ・今後の進め方について(部会の設置等)